

令和元年度病害虫発生予察情報 特殊報 第3号

令和元年 12月5日
広島県西部農業技術指導所

1 病害虫名 オリーブ立枯病

Ralstonia solanacearum

2 発生作物名 オリーブ（品種名：ルッカ）

3 特殊報の内容

広島県における初発生

4 発生経過

(1) 発生確認年月日 令和元年7月24日

(2) 発生地域 江田島市

(3) 確認の経緯

令和元年5月下旬に、江田島市のオリーブ栽培圃場において、落葉や果実の萎凋を示す樹がみられ、症状がみられた枝では導管周辺部の変色が観察された（図1，2，3）

症状がみられる枝を採取し、県立総合技術研究所農業技術センター果樹研究部において褐変部から細菌を分離し、神戸植物防疫所に同定依頼をしたところ、本県未発生のオリーブ立枯病菌（*Ralstonia solanacearum*(phylo type I, biovar3)）と判明した。

(4) 他県での発生状況等

国内では、香川県で初めて確認され平成30年3月に特殊報が発表された。その後、鹿児島県、宮崎県で発生が確認されている。

5 病原菌の特性

本病原菌は、多くの野菜や花き類、その他多数の植物を侵す多犯性・土壌伝染性の病原細菌で日本においてもトマト、ナス、ジャガイモ等のナス科植物、ダイコン、イチゴ等で発生を認めている。

生育温度は10～41℃で、夏季高温になると青枯病等が発生しやすいことが知られている。

6 防除対策

(1) 本病に対する登録農薬は無いため、耕種的防除が基本となる。

(2) 発病した樹は、速やかに抜根、除去し、残渣は圃場内に放置せず焼却する等して適切に処分する。また、同じ場所に定植しない。

(3) 発病や感染が疑われる樹は、剪定等の作業は最後に行う。

(4) 管理作業時の感染を防止するため、樹液が付着する剪定バサミやノコギリなどの用具の清浄、消毒（70%エタノールや次亜塩素酸ナトリウム水溶液）を行う。

(5) 新植時は既発生地からの苗の導入に注意するとともに、過去にナス科作物の青枯病等、本菌を原因とする病気の発生があった圃場の利用は避ける。



図1 枝の落葉の状態



図2 果実の萎凋の状態

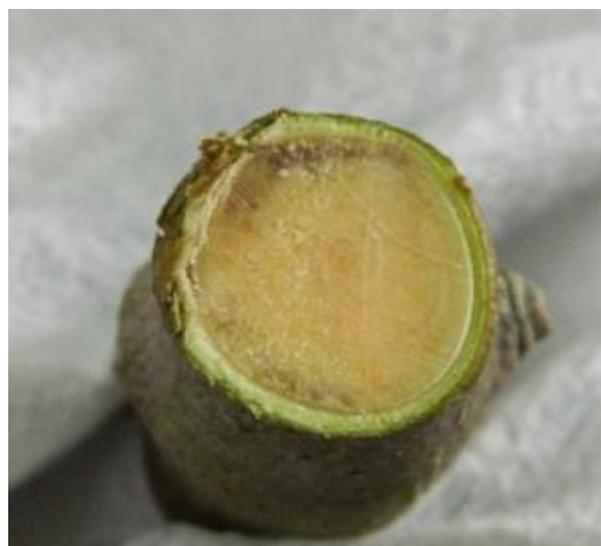


図3 枝断面の褐変症状

○病害虫発生情報に関するお問い合わせ先

西部農業技術指導所（植物防疫チーム）（〒739-0151 東広島市八本松町原 6869 電話082-420-9662）

広島県立総合技術研究所 農業技術センター果樹研究部

（〒739-2402 東広島市安芸津町三津 2835 電話0846-45-5471）

農林水産局農業技術課

（〒730-8511 広島市中区基町 10-52 電話082-513-3559）

○病害虫発生予察情報は、広島県ホームページで閲覧できます。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/198/syokubou-t.html>